

ISSN 2435-8231

尚美学園大学スポーツマネジメント研究紀要 第3号

BULLETIN OF SPORT MANAGEMENT SHOBI UNIVERSITY No.3

論文 | Articles

オリンピック麻生太郎選手の心と技と財政論

The Athlete ASO TARO's Heart for Technical Public Finance

中村 宙正

NAKAMURA, Hiromasa

尚美学園大学総合政策学部

Shobi University

2021 年 12 月

December 2021

論 文

オリンピック麻生太郎選手の 心と技と財政論

中村 宙正

The Athlete ASO TARO's Heart for Technical Public Finance

NAKAMURA, Hiromasa

Abstract

His Excellency The-Rosen Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japanese Pop culture to the skeet shooting athlete participated in the Montreal Olympic games, and then entered the service of Minister for National Sports (Sept.2004-Oct.2005). There are no Japanese voters who do not know his character. The 92th Prime Minister of Japan has established the original Public Finance for financial crisis by the credibility of Japanese government bond in combination with Abenomics. According to Ramsey rule, consumption tax does not cause dead weight loss. On the one hand he protected tax system, but on the other hand he defended Japanese exporting companies against Yen appreciation pressure. This policy is the same as the objective of the 78th Prime Minister of Japan. In the present circumstances, the government liabilities are increasing when the Bank of Japan expand monetary easing. Therefore, in this study, the purpose of securing renewed finances is to allocate economic resources for desirable initial conditions in market competition, and there is a complement system of public bond market, which is composed of Nominated Advisor; NOMAD and Shijohkankeisha Exchange Trading System; SETS. It is important to consider a ratio of public debt to GDP.

抄 録

モントリオール五輪クレイ射撃日本代表 麻生太郎 選手は、フリーランスで国家や組織に属さず自身が納得出来る仕事だけを請けて完璧にやり遂げる道に進むのではなく、地元飯塚の青年会議所に第二の人生を求め、個人競技からチームワークに転身することを実現された。国立大学を飯塚に誘致する活動に成功し、九州工業大学情報工学部の創設が大蔵省から認可されるなど若き日の実績がある。自民党宏池会に所属し、ご縁があり結婚もあり、総務大臣、外務大臣をつとめ、第92代内閣総理大臣となる。池田勇人通産大臣の当時の秘書官は、後の宮澤喜一副総理兼大蔵大臣であったが、消費税による財源確保と円高是正を重視する指針は、麻生太郎副総理兼財務大臣も同じく貫いた財政論であった。日本円と日本国債が信認される

大切さと、長期的な円高圧力の背景・理由を知っている。ラムゼールールとアベノミクスを組み合わせる手腕が、第92代内閣総理大臣の財政論として確立された。ソート・リーダー（実践的先駆者）、バスト・アンバサダー（最高の大使）として技を生かし、母の心を大切に、人間社会を結ぶため、市場関係者地域通貨、公債市場補完制度による財源確保の方法を提案することができる。

キーワード

ラムゼールール (Ramsey rule)

チームワーク (Teamwork)

円高是正 (The strong yen)

市場関係者地域通貨 (Shijohkankeisha Exchange Trading System; SETS)

公債市場補完制度 (The Complement System of Public Bond Market)

序 論

モントリオール五輪クレイ射撃日本代表 麻生太郎 選手は、アスリートとして心と技を政財界に円転させ、独自の財政論によって第92代内閣総理大臣に昇りつめた。平和を願うオリンピックが第二の人生を成功させた希望の鼎である。和心と技巧が複雑に絡み合い、新たな財源を確保し続けてきた。本研究は、その手腕について分析の対象とする。

競技者としては、ベトナムが南北統一を果たした旧冷戦時代の1976年にご活躍をされており、肩をならべた同窓はフェンシングで出場された若き日のトーマス・バッハ選手である。のちに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功のために心を尽くされて、IOC（国際オリンピック委員会）第9代会長として歴史に名を刻んでいる。西ドイツ出身である。

東京2020開会式では、各国（地域）選手団の入場に伴うプラカードのデザインにマンガの吹き出しが演出され、行進の音楽はドラゴンクエスト、モンスターハンター、ファイナルファンタジーなど、日本のアニメーションの文化についてこれまでアピールをされてきているローゼン閣下の手腕を思わせた。射撃とアニメーションは、心と技を極めた仕事である。

ゴルゴ13の愛読者として知られるが、アニメーションを通じて国際社会のリテラシーを伝える試みは、NHKにおいても採用されている。古くは、フランス王国を舞台とする三銃士やベルサイユのばら（デジタル・リマスター版）に見られ、近年では合従連衡の語源にせまるキングダムである。人間として生きることの光と影をアニメーションは描いている。

1. ローゼン閣下のハート

秋葉原の演説から若者の支持を受けるようになったと評されている2006年（平成18年）9月の自民党総裁選を経て、日本国民の有権者のあいだで「人間 麻生太郎」を、どの方々もみな知るようになった。閣下は、皇室と親族であり、元勲 大久保利通の子孫、吉田茂総理大臣を祖父とし、娘婿はロスチャイルド家（分家）であり、日本のポップカルチャーを代表する。

「俺たちの麻生太郎」（日本経済新聞2019年2月4日（月））という表現さえ公認されている。財政・外交で功を奏した安倍晋三総理大臣の愛したスポーツはゴルフであり、国民に親しまれているが、麻生太郎選手が国際試合で個人優勝しているスキートは流石に貴族の競技を起源としており、アスリートとしての閣下に相応しい。国民に夢をあたえるハートである。

平和の象徴をハトと言いきレーの起源では標的であったが、人間の心が平和を願うにあたりそ

れは偶然の洒落だろうか。鳩山一郎日本自由党総裁の公職追放が第一次吉田茂内閣を発足させている。その因果なのか、麻生内閣は、鳩山由紀夫内閣に禅譲をなされている。戦後日本の殺伐とした権力闘争の背景にハートの存在がある。そして求愛の矢の標的こそハートと言う。

政治がらみな平和の祭典となることは無理もないと分析できる。光と影によって描かれる人間の歴史によって、スポーツ競技がハートの象徴となった経緯があるからである。そこに予算の確保が標的となるから、財政の技を競うジャンルが閣下の職務領域に入った。よもや個人種目ではなく、ハート共感の求めあいであるチームワークを基本とする。

1.1. ハートのルーツ

閣下のハートのルーツを分析することは、財政論を修めるにあたって欠かすことができない。なぜなら、日本財政の歴史そのものと言えるからである。アスリートとして磨かれパナマハットを身につけマフィアスタイルで知られる閣下であるが「タフガイと見られている」と衆議院予算委員会（平成29年2月14日火曜日）においても評されたほどである。

著書『とてつもない日本』（2007年、新潮新書）においては、閣下の政治の責任についてハートを窺い知ることができる。たとえば「今現在、持ち家も貯蓄もなく、年金も十分にもらえていないという高齢者もいるだろう。そういう人たちについては、政治がきちんと責任を取らなければならない（p.73）」とある。実践は難しいが、心ある御言葉である。

「老人の中にも極めて生活に困窮している人はたくさんおられるだろう。重ねていうが、それに目をつぶるなどということ、政治家がしてはならない。（p.77）」「そして、何度も言うけれども、本当に恵まれない人たちは、国が責任を持って支えていく。（p.84）」様々な被害者も存在するなか、現実的か、財源をどうするかより、さきに理念を示されている。

国民に、政治とはなにか、国の責任について、わかりやすくお伝えを頂く役割を担っておられる。利権絡みの国会議員も多く存在するなかで、閣下には貴族的なステータスがあるがゆえに、国を思う真心をもって、国民に教養的観点を話し下さっている。漢字の読み違いがどう、という教養のことではない。国とお金と人間関係についての素養である。

1.2. 個人競技からチームワークへの転向

フリーランスで国家や組織には属さず自身が納得出来る仕事だけを請けて完璧にやり遂げる競技経験を生かしたプロの道に進むことなく、五輪出場後の昭和53年には、地元飯塚の青年会議所に所属し、日本青年会議所会頭をつとめた。翌年には、中選挙区制において定員5名の福岡2区から衆議院議員に初当選。3年程後、自民党青年局局長に就任された。

当時、^{ちまなこ}血眼になって走り回っていたことは、炭鉱が衰退する地元筑豊の飯塚に国立大学を誘致する活動であった。初当選から6年後、九州工業大学情報工学部の創設が大蔵省から正式に認可される。IC、VAN、エレクトロニクス、コンピュータへ急速に日本の産業構造が転換されてゆくなか、地元が情報産業都市として発展する礎を築いた。

自由民主党では宏池会に所属していた。プライベートに至っては、初当選から4年後に結婚。池田勇人内閣で初入閣を果たした鈴木善幸元総理大臣の娘婿となった。義理の弟は後の鈴木俊一財務大臣である。宏池会は鈴木派と呼ばれた時代があり宮澤派として受け継がれる。

岸田文雄宏池会会長とは縁戚であり、大宏池会構想の中心は麻生派である。

1.3. 薩長同盟の御心

元勲を高祖父とする閣下は、福岡8区選出とはいえ、薩摩と土佐の魂が入っており、これまで多くの外務大臣を輩出した長州出身の政治家と連携する志向性がある。Cagoximaをめざして、

山口まで来訪された宣教師フランシスコ＝ザビエルの足跡を思わせる。ダミアンの殉教地および井上馨の出生地は湯田であり、伊藤博文をはじめ長州五傑は山口大学に記念されている。

2019年11月の教皇フランシスコの来日は、そうした日本でのキリシタン宣教の長い歴史と深く結ばれていると判断される。長期安定政権を誇った安倍晋三内閣の要として副総理兼財務大臣をつとめていた時期に実現された。北村誠吾衆議院議員（長崎4区選出・当選8回・宏池会）が、内閣府特命担当大臣として初入閣を果たされていた在職期間とも重なる。

なお、永田町に隣接する麹町の上智大学は、元勲が遭難された紀尾井町清水谷にも近いのだが、大学と教会の雅景に親しむことのできる四谷見附は、長州藩毛利家により築かれた歴史がある。大友宗麟の娘婿 毛利秀包（元就九男）はキリシタン大名として知られ毛利領内は布教伝道の歓諾された時期がある。信者は増えていたが、後に迫害を余儀なくされた。

薩摩、土佐の精神的支柱に基づいて政財界と関わる指針は、長州出身（山口県選出）の政治家の手法とは、生来的に相いれないと判断される。関ヶ原の戦いでの退却の仕方さえ、島津と毛利が仲たがいするようになった要因として挙げられるほどである。装備と外交を本領とする方々に、閣下は、財政の対象の一つが防衛であることを以て同盟を試みてきた。

1.4. 聖母の肖像

麻生家には一枚の肖像画が遺されており、ジョン・フォスター・ダレス氏がロンドンの画家に、閣下の御母君和子様を描かせて贈られたものである、とお伝えになられておられる。ダレス氏は、サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約のアメリカ代表で、当時、米国務長官顧問をされていた。日本側の代表こそ、吉田茂内閣総理大臣であった。

ローマ聖心女学院（Trinità dei Monti）のご出身であり、清泉女子大学の前身の清泉寮学院の開設に尽力された母をもつ熱心なカトリック信者である。二・二六事件では、機転が生かされて、昭和天皇の側近である祖父 牧野伸顕 元内大臣 を狙撃される窮地からお救いになられている。なお、渋谷区民として神山から南平台はそう遠くもない、と判断される。

吉田茂元総理大臣（セント・トーマス・モア）のご葬儀の御ミサは、ご逝去の3日後に司教座教会の東京カテドラル聖マリア大聖堂において国葬より数日早くに執り行われている。この教会の信徒総代が麻生太郎元総理大臣であると伝えられていたことは日本国内に在住するカトリック信者のあいだで広く知られていたことは確かである。

日本カトリック正義と平和協議会は、麻生太郎首相の伊勢神宮参拝に抗議する意向について2009年1月9日に公表をしている。信教の自由、政教分離、憲法遵守、基本的人権の大切さを重んずる皇室の親族である。自民党は立正佼成会を基盤とした歴史があり、政権のために公明党と連立し、靖国神社の非政治化を求める御方の霊は、権力に従う兵士に同じである。

『Sancta Maria no gozowa doko』そのような思いをさせてはならない。希望の光が見えず、絶望しか見出せない人々を、必ず、救い出さなくてはならない。中川昭一財務大臣兼金融担当大臣は盟友であった。2009年7月7日、首相として、ベネディクト16世と会談をされている。諸事情に翻弄されたからこそ、信仰の自由がある閣下をお支えするのは、マリアさまの心である。

2. ハートを撃ち抜く技巧

「昔から特技は何かと問われれば、「ばあさん芸者にモテること」と答えることにしていた。育ちも選挙区も福岡の炭坑町、男臭い土地柄である。そこでセメント会社の社長という、これまたあまり色気のない仕事をしていた。」（前掲 著書、p.189）日本の国益を死守するため全力を傾注できるための技巧は、ハートをとらえる特技に由来している。

国民と気さくに話し、親しみやすい人柄であり、日本と日本人の底力に一点の疑問も抱かない。これまで幾多の困難を乗り越え発展してきた日本人の底力というものを信じる。日本の未来は明るいという希望について自信をもって表情にあらわすことができる。麻生節として知られる毒舌もまた人心掌握術のひとつである。初入閣と大勇会旗揚げ以降のチームワークを考察する。

2.1. ソート・リーダー (Thought Leader)

人より先に難問にぶち当たらざるを得ない星回りにある実践的先駆者として先頭を走り、よい影響をあたえ、ときに成功のみならず、失敗例も進んでさらけ出す。経験を隣人たちに努めて説いてゆく。国の財政がぶつかる問題に、単純な解決方法は存在しない。完全には解決できないことも多く、解決しようともがく姿自体が、他の方々にとって教材となる。

リーマン・ショックに直面した際は、直ちに景気対策を最優先する方針を明確にした。2009年度、一般会計税収は38.7兆円と伸び悩むなか、一般会計歳出を101.0兆円として、差額の62.3兆円を顧みなかった。百年に一度の国際的な経済危機と言明し、日本は国際的な役割を優先するよう、普遍的価値を基礎とし豊かで安定した地域を形成する、とした。

そうしたリーダーとなる覚悟は、1996年に第2次橋本龍太郎内閣において経済企画庁長官として初入閣を果たし、河野洋平会長が旗揚げした大勇会に参加してのち、とくに垣間見える。ただし、自らがリーダーになろうとする素振りさえなく、権力闘争において、のちに敗れることのないリーダーを選び抜いてゆくソートが的中し続けてゆくのである。

まず、宏池会のプリンス 加藤紘一 元内閣官房長官が、山崎拓 元建設大臣、小泉純一郎元総理大臣とYKKと呼ばれていた時期に、河野太郎元大臣の父親を選び、15名の議員仲間を連れて、正式な新しい派閥を成立させている。リーダーには三木派出身の鯨岡兵輔元衆議院副議長を立てている。権力闘争においてハートを撃ち抜くソートである。

大勇会に所属していた当時から、親台湾派のタカ派として知られ、新冷戦時代に至り、台湾海峡を巡って民主主義と専制主義とがせめぎ合う局面において、日本の外交・防衛の方針を国民に説明する人物としての礎が築かれている。蔡英文総統が安倍晋三元総理大臣と野党時代から交流を深めていたことは、若き日の閣下の信条とも合致しているのである。

2000年11月の加藤の乱では、第二次森喜朗内閣不信任決議に反対し、安倍派の流れをくむ方々とのチームワークが結果として新たに実現するようになる。2001年1月、経済財政政策担当大臣などに就任し、同年4月には、小泉純一郎元総理大臣が選出されることとなった自民党総裁選挙に出馬するに至った。総裁選初出馬であり、将来の足掛かりとなった。

小泉内閣では、2003年9月に総務大臣就任、同年11月に再任、2004年9月には、国民スポーツ担当大臣を兼任するようになり、2005年10月には、外務大臣に就任した。民主主義、平和、自由、人権、法の支配、市場経済を展開する「価値の外交」を基礎とし、日本が、「自由と繁栄の弧」をつないでいくと述べて、麻生ドクトリンが形づくられていった。

2006年9月、自民党総裁選で安倍晋三内閣官房長官（当時）に惜敗し「悔しい思いをした」（前掲 著書、p.38）と振り返る。第一次安倍晋三内閣では引き続き外務大臣をつとめ、同年12月には、大勇会解散に伴い為公会（麻生派）を結成し会長に就任した。無派閥議員を受け入れる一方、反麻生勢力（谷垣派、古賀派）との対立が先鋭化するほど大きな存在になっていた。

2007年9月、自民党総裁選では、麻生包囲網が生じた。福田康夫政権において、党人事、閣僚人事では、麻生派から選出は無かった。ただし、サブプライム・ショックの影響により経済が低迷するなか自民党支持率は低下傾向であったため、政権が弱まるごとに麻生派の影響力は増していき、2008年8月の党役員人事で麻生太郎幹事長の就任が決まった。

2008年9月、自民党総裁選挙で圧勝し、第23代自由民主党総裁に就任された。2008年9月24日、

第92代内閣総理大臣として親任された。「リーマン・ショック」と呼ばれた世界金融危機に直面していた。2009年2月24日、バラク・オバマ米大統領と日米首脳会談がワシントンで開催され、なかでも最初に対応すべきは金融危機であることで一致が見られた。

2.2. ベスト・アンバサダー（最高の大使）

ハートをとらえる特技が生かされるのは、自分たちのことを多くの方々に知ってもらう広報活動においてであり、組織の顔として団体の様子をあらわす方々、人と人をつなぐ役割の方、社会と社会を結ぶ人たちの間にて相応しい表情が求められるとき、などである。国であれば外交官および外務大臣であり、日本政府の歩みを代表するさいは、閣下である。

重ねていうが、閣下は毒舌なのであるが、あるときにはアニメーションの世界の顔であり、元外務大臣として靖国問題を代表でき、地方財政については筑豊の歴史を語り、情報通信都市について語り、またあるときは財務省の顔であり、オリンピックを代表し、国民にたいしては政府の歩みを伝えている。あらゆる組織の表情をあらわす最高の大使である。

日本人技術者たちの仕事ぶりそのものが、優れた外交官の役割を果たしている、と指摘している閣下は外務大臣経験者としてベスト・アンバサダーである。ODAなどの資金援助や技術協力だけではない。よそゆきのやり方でもなく、いつものスタイルで仕事をしている。しかしそれが働くことについての価値観を覆すほどの衝撃をあたえる。労働の美德である。

トヨタ、ソニー、松下、ホンダ、キャノン、ニンテンドーなどは多くの技術者を会社員としてきた。カイゼンやノーキは海外でも通用するビジネス用語である。長期継続で安定した雇用契約があるから、ピア・プレッシャーの行き届いた企業社会が存在することとなり、生産工程の効果的な改善や、時間通りに仕事を進める納期を重視することができる。

日本の文化そのものが最大のプレゼントになっている分野もある。カラオケは音響技術やJポップなどアートの技術力に支えられている。マンガでは、鉄腕アトムやドラえもんなど科学や技術への潜在的な関心と呼びおこす作品もある。キャプテン翼のように、サッカー選手をめざすきっかけになる場合もある。夢、技術、仕事が一体となっている。

ストップウォッチの技術が、あらゆる技術者を鍛え、多くの方々の暮らしを支える貢献につながった事例もある。地下鉄などの公共交通機関において時刻表通りの運行が可能となるために、技術者は、分単位・秒単位での努力を重ねてきた。インスタント・ラーメンやカップ麺の産業も同様であり、実は世界中の多くの方々の胃袋を支えることができる。

実業家・経営者としての実績もベスト・アンバサダーとして生かされる。勤労者が文化に親しみ、働き方を心よく見直すようにつとめ、雇用保険、社会保険を職場が負担でき、所得税を納付できることにより、経済の好循環は実現され、有効需要創出による波及効果も生じ、税収の増加を導く財政論を提示できる。民主主義と経済について望ましい関係を築くプロセスは、海外諸国に有意義な示唆を残すことに繋がると判断される。

3. とてつもない財政論

自国通貨建てで公債発行を続ける限り財政は破綻しないが、均衡財政論をよく取り入れているからこそ「とてつもない財政論」を打ち出すことができた。ソート・リーダーが、ベスト・アンバサダーとして黒田東彦日本銀行総裁と財務省（財務官僚）を安倍・菅内閣のもとで結びつける。本来は結びつかない権力どうしにチームワークが成立してきた。

第92代内閣総理大臣は、景気循環によって生じた百年に一度の世界金融危機に全霊をもって臨み、任期を終えられて後も直面する課題への対応に責任を担っておられる。震災復興やコロナ禍

など、経済の外生的要因も作用するなか、資本主義において循環的に生ずる不況への対応にたいしては、直ちに財政支出を増大させて均衡財政論者を中心とする権力に立ち向かい、闘魂を見せ続けてきた。

「民主主義は、終わりのないマラソンである。常により良い状態を目指して進むが、完全なものが完成することはないかもしれない。(前掲 著書、p.164)」民主主義と経済のことを財政民主主義といい、我が国では日本国憲法第83条が主たる根拠とされる。衆参両議院に予算委員会があり、公的部門による予算の配分は、民主主義にもとづいて行われている。

未曾有の恐慌に多額の法定通貨を国民へ提供するというソートは、財源の議論を一方的に止める技術によって成り立っている。間隙を縫って均衡財政論をもって、日本円の信認に関わる論敵を撃ち抜く。だが折を見て均衡財政論者も狙撃する。麻生派内も分裂選挙に巻き込まれてしまうが、一貫して言えることは、閣下もまた、とてつもない均衡財政論者である。

閣下は、天下り先において副総理兼財務大臣をつとめた時期があるが、その最後の仕事は、G7財務相会合において国際的な法人課税の改革に関し、いくつかの合意が得られたことである。2021年9月29日に記者会見を行っており、任期満了の前日まで多大な成果を挙げられておられる。あくまで税制にもとづく財源確保の手法に専心をされてきている。

経済面と安全保障面とを分けて考える必要を指摘したうえで、累進課税制度を前提としているビルトイン・スタビライザー（財政の自動安定化装置）を堅持する。「国の景気が良くなれば、働く人たちの収入は増えるが、税金も高くなるので、過剰な消費拡大を抑えることになる。逆に景気が悪くなって収入が減っても、税金も安くなるから、やはり極端な消費の落ち込みを抑制する。(前掲 著書、p.28)」そして、外務大臣経験者である観点から、次のようにも指摘する。すなわち「日本はアジアにとって、こういう装置、「安定勢力」として機能しているのではないか。(前掲 著書、p.28)」と述べている。アジアに埋め込まれている日本の民主主義と財政的機能について知見を顕わされておられる。

3.1. アベノミクスと麻生財政

正常な経済原則を重視する宏池会の歴史は、池田勇人通産大臣に原点が見られ、当時の秘書官で後の宮澤喜一副総理兼大蔵大臣（竹下登内閣）に受け継がれ、消費税による財源確保の方針と円高是正を重視する指針は、麻生財政とも呼ばれる麻生太郎の財政論として確立されている。すなわちラムゼールールとアベノミクスが組み合わされているのである。

価格弾力性が無い（または出来るだけ低い）財、すなわち生活必需品に課税をする方法が厚生損失を無くする（または出来るだけ小さくする）というラムゼールールは余剰分析において基本であるが、「貧乏人は麦を食え」という趣旨の報道に多くの批判が集まったように、消費税率の引き上げには野党およびマスコミなどからの批判を覚悟する必要がある。

自国通貨安が輸出企業の業績を改善し、国内景気を下支えするため、賃金の上昇を導くとする脱デフレ理論がアベノミクスであるが、中央銀行の金融緩和による財務省の予算制約緩和によってマネーサプライの大規模な増加を実行できる。主要国の財務相・中央銀行総裁の同意を得られることにより、協調的な財政政策を実現できるようになる。

「アベノミクスは道半ば」と本田悦朗元内閣官房参与が評する（朝日新聞デジタル2020年9月14日6時00分）ように、麻生財政の検証については直ちに分析結果として纏まる内容ではない。すなわち金融緩和のみでは限界があり、総理と副総理とのあいだには消費増税をめぐる見解の相違があった。黒田日銀が放つ矢の安定感に結果的には支えられた。

円の独歩安が生ずるならば日本経済の実力低下が要因であり、ここでの論議の対象ではないが、自国通貨安の圧力で国内経済を回復軌道に乗せようとする試みは、寧ろアメリカの経済政策

に見られてきた歴史がある。そのたびに欧州および日本は、自国通貨高を機を見て是正すべく努めてきており、同時に自国通貨への信認も得られるよう駆け引きをする。

自国通貨安が輸入物価を引き上げるという論点は、財政論ではないということである。あくまで自国通貨安は輸出競争力を高め、自国通貨高へ反動する機能が備わっているという論点、外貨準備を高めることによって自国の公債にたいする信認が高まるという論点、輸出企業が収益性を高めることによって国内景気が上向き税収を伸ばすという論点、輸入物価上昇は国内の構造改革を促すなど、経済の好循環に関する財政論を提示している。

財政の役割とは、公共財および準公共財の提供であり、安全保障、公衆衛生（獣医学分野）、教育・人材育成、医療・介護、防犯などへ予算面での対応が行き届くよう努められてきている。

そのうえで東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が成功するよう、心を尽くして、平和を願い、その意義を多くの方々に伝えるよう一つひとつの積み重ねを継続されてきた。

日本円の信認を外貨準備と増税によって確保しつつ、時機を見て円安株高を実現し国内景気を上向かせ、賃金の上昇と税収の増加を実現する。2%の物価目標を達成できないため効果の是非を問われているが、麻生財政という財政論が失敗しているのではない。実は、おなじ手法をアメリカが採用しており、その圧力が極めて強く、防戦のために学んでいる最中であると言える。「明日からできることは、今日までやってきたことと、少しの違いもない。それはすなわち、懸命に働くこと。知識や経験を分かち合うこと。成功と失敗の体験を共有するため、機会をとらえて対話を重ねていくこと。その中から、政治でも経済でも、ベストプラクティスを互いに学びあっていくこと一。（前掲 著書、pp.187-188）」それは地方財政が身に沁みており、外務大臣を経験し、第92代内閣総理大臣として世界的な金融危機と向き合う職責を果たし、副総理兼財務大臣をおつとめになれる宿命にある人物が、かつてご自身に言い聞かせていた御言葉なのではないかと拝察されるのである。

3.2. アメリカのジレンマと麻生財政

アベノミクスおよび憲法改正を批判している論客も多く、憲法学者 美濃部達吉 教授のご親族であり、国際通貨をご専門とされている 浜 矩子 同志社大学教授は、その代表されるお一人と評されている。経済学者であり、カトリック渋谷教会におられる御方であることは、日本国内に在住するカトリック信者のあいだで広く知られていることは確かである。

経済思想に関する観点から、第92代内閣総理大臣と経済学者 浜 矩子 教授は遠くないと判断されるため、本研究はキリスト教を信仰する財政論者を対象としている。救済についての解釈および判断基準は近いと考えられる。そればかりか、経済財政政策、為替政策の見解について、相違点が多いことは前提とするが、どこかまでは一致しているのである。

アベノミクスに類似する造語を書名とした著書もあるが、東日本大震災より以前の2011年1月に出版をされている著書に『1ドル50円時代を生き抜く日本経済』（朝日新聞出版）がある。国際経済における長期的な円高傾向をとらえており、むしろニクソン・ショック以降はドル安傾向であることを指摘している。通貨と公債の信認に関する分析である。

「これは要するにドルへの信認問題だ。信認を保つことで世界の資金をアメリカに引き寄せるか。信認を犠牲にしてでも、安いドル、競争力あるドルに活路を見出すか。信認力か競争力か。この綱引きは、ニクソン・ショック以来、アメリカが抱えてきた迷いの種であり、ジレンマである。基軸通貨国のジレンマと言ってもいいだろう。このジレンマの重さ・難しさを、今アメリカは改めて思い知らされている。」（前掲、浜矩子 pp.35-36）

同書は、湾岸中東諸国が莫大な米ドル資産を保有していることを指摘しており、米ドルの暴落が避けられない場合、資産を別の形に切り替えるであろうことを論じている（p.95）。ユーロは

ドルの受け皿になれず（第2章）、金をはじめとする資源、または人民元でも対応できない場合には、日本円が買われる傾向にある、と判断される。

プラザ合意の翌年である1986年に発表された「前川レポート」では円高に対応した構造改革を目指すよう指摘がなされているが、他方、宮澤喜一副総理兼大蔵大臣、および麻生太郎副総理兼財務大臣によって実行されてきた方針は、円高は正であった。宏池会によって受け継がれてきた正常な経済原則によれば、物価の安定こそ基本に置くのである。

浜矩子教授は、円の購買力が大きく上昇することをいかに新しい展開に結びつけてゆくかを指摘するが、過保護になってはならないとするなかで、次のようにも述べている。「ただし、弱者救済は必要だ。それが痛いところに手が届く対応である。大きくスキームが変わってゆくときには、すぐには変化に対応できない人々、産業、企業というものが出てくる。そういう人たちの痛みをどう解消してゆくか。そうした産業が新たな展開に向かって動くことをどう支援してゆくか。」（前掲、浜矩子 pp.186-187）現実的か、財源をどうするか、実践は難しいが、心ある御言葉である。

3.3. 日はまた昇る

「そして何度も申し上げている通り、私は一定の人への福祉、セーフティネットは絶対に必要だと思っている。」（前掲、麻生太郎『とてつもない日本』 p.90）チェコ語で強制労働を意味するロボッタが人類を支配しうるのはAIが普及するなか多くの方々が感じ取っていることである。財政論に一定の人への福祉があれば、その国民は再興されうる。

機械が人間を疎外するという理解を超えて、日本のマンガはロボットへの好感度を上げてきたのであり、ローゼン閣下はその時代を捉え、サブカルチャーに従事する方々を産業として評価し、人間が身につけているあらゆる技術を、雇用と勤労による所得増、税収増に結びつけるよう考えられてきた。セーフティネットにそれだけ依存しないように努める財政論である。

「ジョブ、ジョブ、ジョブ」と繰り返す ジョ・バイデン米大統領のモチーフは、英国のトニー・ブレア元首相が1997年の政権奪還を目指すなかで「教育、教育、教育」と連呼し、当時の現職のジョン・メージャー首相も「私も教育、教育、教育だ」と応じたことと重なる。英米人こそ、教育と人材育成（雇用、就労錬成、税収増）を重視する姿勢がわかる。

GNHのように幸福度を重視する場合、GDPは重視されない。カンザス大学において1968年3月18日に演説があったとされる ロバート・ケネディー第64代司法長官 の良心にも経済成長と幸福は関係しないことがあらわされている。但し多くの方々に幸福を届ける財政は借入れを必要としており、借金の額が妥当かどうかは経済成長との比率で検討される。

日本の財政において借金に限界はある（公債発行は国内の資金で賄える範囲にとどめるべきである）のだが、「ここで下手に財政が手を引けば、つかい棒を失った日本経済そのものが頓挫する」（前掲、浜矩子 p.196）とある。真心のある財政論として閣下の技巧はソート・リーダー、ベスト・アンバサダーである。人間関係を結ぶ手腕を発揮されてきた。

プレモルやスーパードライをサブカルに含む捉え方もある。「借金してでも人とはつきあえ！」をモットーにする樋口廣太郎社長は著書『つきあい好きが道を開く一元気の出る交友録』にて、人生の宝、リーダーの心得として、才に溺れないこと、冒険心、職商人、学びなどの観点から、良心をどのように運営するか、その手腕についてあらわされている。

住友銀行副頭取からアサヒビール社長となり、中興の祖と呼ばれるほどアサヒ・スーパードライをヒットさせた手腕は、ソート・リーダー、ベスト・アンバサダーの技巧を発揮された人物として、閣下の先輩であろう。小泉純一郎内閣では内閣特別顧問をつとめられていた。事業の収益性に向けて、つきあい好きが道を開いた真心と技巧が、財政論の鼎となっている。

東京2020オリンピック・パラリンピックゴールドパートナーには Asahi の参加があった。かつて1980年代後半にはスーパードライのCMにジャーナリスト落合信彦氏を起用されていたこともご縁である。国際政治経済におけるソートと、それらを結ぶ良心を身につけているアンバサダーとが、思慮を尽くして公的部門の財源を確保してきている。

3.4. 財政論において提案できること

クリプトの通貨を使用されていないことが、ローゼン閣下、紫髪教授、アサヒ麦酒社長、ロバート米長官、ジョー米大統領に共通する財政論である。取引記録を残す技術が安定する時代を迎えたため、公的部門、民間企業、財界人などを結ぶ交友に市場関係者地域通貨（Shijohkankeisha Exchange Trading System; SETS）を使用する方法がある。

金融商品取引法第2条第31項、金融商品取引法第二条に規定する定義に関する内閣府令第23条にもとづく特定投資家、および民間企業（中小企業）などのあいだでSETSの流通を促がす方法により、公的部門は新たな財源を確保することができる。指定アドバイザーの裁量による新規株式公開市場が金融緩和の出口であり、純資産性を伴う財源確保となる。

指定アドバイザー制度と市場関係者地域通貨（SETS）を組み合わせる公的部門の財源を確保するメカニズムを公債市場補完制度と定義する。現状のように量的・質的金融緩和によってマネーサプライを増加させる方法は、日本円、日本国債の信認を維持することに懸念が生ずる手法であり、政府と中央銀行の負債を大きくする。公債市場補完制度は、民間部門の育成を伴いながら経済成長を促す方針であり、株式会社制度を活用する方法によって金融緩和の出口は公債償還に限定されない。格差と分断という新しい社会的課題と向き合うなか、借り手責任ではなく出資者責任により経済格差の是正を促しつつ人間関係を再構築する財政論である。

結 論

デジタル化など技術革新をはじめ社会経済活動に大きな変化が生ずるときに、それは経済成長を実現する好機でもあるが、マネーサプライを相応しく増加させなければ、変化を捉えた成長を達成できず経済効果としては元に戻ってしまう。そのため量的・質的金融緩和政策が欧州と日本で採用され、自国通貨および公債の信認を消費増税等によって保ちつつ、中国、湾岸中東諸国が保有する多額の米ドル資産が円資産に置き換えられようとする際の円高圧力に対して日本経済は屈することのないよう、円高是正に努めてこられた。ただし、現状のように金融緩和を継続する場合に、公的部門の債務について、GDP（国内総生産）との比率を考慮する必要があり、経済成長を伴う金融制度を構築しつつ有効需要を喚起する方法について、本研究は提示をしている。市場関係者地域通貨および公債市場補完制度は、金融緩和政策の出口を株式会社制度に求めており、人間関係を結ぶように運用してゆくことにより、純資産性を伴うよう公的部門の財源を確保することができる。

引用・参考文献

- 麻生太郎（2007）『とてつもない日本』新潮新書
 浜 矩子（2011）『1ドル50円時代を生き抜く日本経済』朝日新聞出版
 樋口廣太郎（1997）『つきあい好きが道を開く』日本経済新聞社
 Robert F. Kennedy（1968）‘Robert F. Kennedy challenges Gross National Product’ Remarks at the university of Kansas, March 18, 1968.